

## OnAir 3000 ユーザーレポート

### 株式会社 ZIP-FM 様

OnAir 3000-24F

NO.1 RADIO STATION

ZIP-FM 77.8

全スタジオを OnAir 3000 で更新



#### 株式会社 ZIP-FM

編成局 編成制作部 兼  
管理局 技術部  
梅村 祐介

#### 更新にあたり

この度、開局以来 21 年間運用してきた全スタジオの音声卓を、アナログ卓からデジタル卓に更新しました。今回の更新にあたり、4 ヶ月、11 回にわたり、技術部及び編成制作部の主要メンバーで検討会を開催しました。同会では、更新前のアナログ卓の問題点を洗い出し、その解決策と必要な機能を検討しました。

#### 機種を選定条件・決定理由

次の必要機能を踏まえ、次期音声卓はデジタル卓を導入することにしました。

・放送技術についての専門技術や知識を持っていない番組スタッフでも、必要最小限の操

作で放送ができること。

- ・ユーザーインターフェースは、操作性、視認性がよいこと。
- ・外部機器とのインターフェースは拡張性があり、追加が必要になった場合に容易に対応できること。
- ・故障時に容易にリカバリーができること。
- ・価格ができるだけ安価であること。

また上記に加えて、信頼性、安定性、保守性を総合的に比較検討した結果、メーカーは STUDER 社とし、入出力及びバスの系統数、設置の際のレイアウトの柔軟性から、OnAir 3000 を採用することにしました。

デジタル卓を採用することにより、音声卓と CD、ポン出し装置等の周辺機器はデジタル接続となり、結果的にレベル管理が容易になったと感じています。スタジオ・マスター間もデジタルで接続されたため、フル・デジタルでの運用が可能となりました。また、ワンマン運用による放送にも対応できるよう、サブ側にもマイクとカフを設置できるようなワイヤリングにしたのも新しい部分と言えます。

#### 運用から半年が経って

運用から半年が経ちましたが、大きなトラブルも無く、また、スタッフも操作に慣れてきた

ため、安定した運用ができていると思います。特に、スナップショット機能があることで、専門知識を持ったミキサーがいなくても、番組スタッフのみでの収録作業がスムーズにできるようになったのは、大きな改善点です。

#### 最後に

今回は、3つのスタジオにおいて、内装工事、ポン出しシステム及びライブラリー・キューシートシステムと CD プレーヤーの更新を同時に行いましたが、1スタジオあたりの内装以外の工事は約 2 週間と、非常にタイトな日程で実施していただきました。短い工期でありながらご尽力いただいたスチューダー・ジャパン・ブロードキャスト、テクト、花岡無線電機、日本音響エンジニアリングに、改めて御礼申し上げます。

